

## 1 概要

- スポーツ庁策定の「[大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針](#)」において、組織委員会等は本指針の遵守状況について、少なくとも年1回、自己説明を行い公表することを規定
- 本指針に基づき、スポーツ庁セルフチェックリスト（11の原則）に沿って本指針の遵守状況を報告するとともに、自己説明書を策定し、公表（直近の公表は昨年2月）

### 【セルフチェックリストへの対応状況】

	令和7年3月14日時点	【参考】 令和6年2月14日時点
対応済み	122	119
対応予定	1	4
—（対象外）	8	8

## 2 主な更新内容

### ■ 「対応予定」から「対応済」となった項目 ※変更箇所は赤字下線

<p>原則 6-6</p>	<p>各事業年度の計算書類等の会計監査及び適法性監査に加え、具体的な業務運営の妥当性に関する監査も可能な限り積極的に実施し、組織の適正性に係る監査報告書を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>監事が、理事の職務執行を適法性及び妥当性の観点から監査するとともに、会計監査人が、各事業年度の計算書類等の会計監査を行い、各々が監査報告書を作成・公表</u></li> <li>・ <u>監査室においても、職員の職務執行を対象に内部監査を実施するとともに、監事・会計監査人と密に連携した三様監査体制を構築し、監査機能を強化（略）</u></li> </ul>
<p>原則 6-12</p>	<p>公的資金の利用に関し、自らの団体が遵守義務を負う法令・ガイドライン等の洗い出しを行い、遵守しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公的資金を利用する <u>にあたり、「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」などのガイドラインや関係法令等を遵守し、適正に利用している。</u></li> </ul>
<p>原則 7-6</p>	<p>公益法人認定法に基づき、公益法人が事務所に備え置き、何人も閲覧等を請求できるとされている書類について、主体的に開示しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公益法人認定法に基づき事務所に備え置くべき書類について、<u>請求があった際には閲覧可能となるよう整備するとともに、開示可能な書類時については主体的に順次公表（略）</u></li> </ul>

## ■ その他

- ・ 高度人材受入制度の構築に伴う更新（原則1-7）
- ・ 令和6年5月の役員選任、令和6年9月の新たな業務執行理事選任に伴う更新（原則2-2、2-4～6、2-8、2-10～13、3-17）
- ・ 年度ごとに作成するものに関する時点更新（原則1-11、1-12、4-2、5-1、7-3）
- ・ 実績の時点更新（原則4-1、5-1～3、6-7）
- ・ その他、当法人規程の改正に伴う、規程名の更新及び当法人ウェブページ上の掲載先更新 等

### 3 「対応予定」の項目について

<p>原則 5-4</p>	<p>大会ボランティアなど役職員以外の関係者に対してもコンプライアンス教育を実施しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス規程において、大会ボランティアなど役職員等以外の関係者への対応について規定 <a href="https://worldathletics.org/jp/competitions/world-athletics-championships/tokyo25/about-us/regulations">https://worldathletics.org/jp/competitions/world-athletics-championships/tokyo25/about-us/regulations</a></li> <li>・ 今後、職務内容及び属性等に応じて適切に実施予定</li> </ul>
-------------------	--	--

⇒大会ボランティアなどの決定後に、順次研修を実施した後、「対応済」となる見込み

## 4 参考

### 【スポーツ庁セルフチェックリスト 自己説明項目】

- 原則1 組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである
- 原則2 適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである
- 原則3 組織運営等に必要な規程を整備すべきである
- 原則4 コンプライアンス委員会を設置すべきである
- 原則5 コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである
- 原則6 法務、会計等の体制を構築すべきである
- 原則7 適切な情報開示を行うべきである
- 原則8 利益相反を適切に管理すべきである
- 原則9 通報制度を構築すべきである
- 原則10 懲罰制度を構築すべきである
- 原則11 危機管理及び不祥事対応体制を構築すべきである

## 1 会長及び事務総長

会長は、当財団を代表して業務を執行し、事務総長は会長を補佐するとともに、事務局の事務を統括した

### ■ 理事会開催

以下のとおり、理事会を開催し、マスコットデザインや大会モットー、スポンサーシップ契約等を審議

- ・ 11月13日（第18回）決議事項3件：スポンサーシップ販売方針の改定、マスコットデザインなど・報告事項1件
- ・ 12月5日（第19回）決議事項4件：高度人材受入制度の構築、大会モットー、大会キャッチコピーなど・報告事項2件
- ・ 12月23日（第20回）決議事項2件：大会経費に関する東京都への要望、National Agencyの指定及び協定締結・報告事項3件
- ・ 1月22日（第21回）決議事項2件：スポンサーシップ等の契約、マラソン競技実施に関する協定締結など・報告事項1件
- ・ 2月17日（第22回）報告事項3件：ボランティアについて、持続可能な航空燃料（SAF）の活用等に関する取組など
- ・ 3月19日（第23回）決議事項1件：役員等賠償責任保険契約の締結
- ・ 3月26日（第24回）決議事項4件：2025年度事業計画及び予算、人事・労務関係規程の改正など・報告事項6件

## ■ その他

- ・ 9月30日から10月4日に計画フェーズの最終段階としてサイトビジットを実施。会議では、東京2025世界陸上財団から、WAの関係者に前回のサイトビジットからの取組の進捗状況、今後の準備について共有を行った。  
10月2日にはWAのセバスチャン・コー会長とともに小池都知事と面会
- ・ 東京2025世界陸上スペシャルアンバサダーとアスリートアンバサダーを決定
- ・ チケット一般販売を開始。合わせてプロモーションポスターと大会キャッチコピーを発表
- ・ 大会200日前イベントを実施し、公式マスコットのネーミングを発表
- ・ 財団内幹部による定例会議の開催などを通じて、各部門の業務進捗状況や課題の把握を行うとともに、必要な対応を指示

## 2 コンプライアンス担当理事

### ■ コンプライアンス委員会開催

以下のとおり、コンプライアンス委員会を開催し、当財団コンプライアンス規程第5条に基づく決議事項について審議

- ・ 3月14日（第5回）決議事項2件：スポーツ庁セルフチェックリストへの対応状況の自己説明及び公表について  
令和7年度コンプライアンス推進計画の策定について  
報告事項3件：令和6年度コンプライアンス推進に係る取組結果について  
第三者審査委員会からの情報提供について など

### 3 ガバナンス担当理事

#### ■ 第三者審査委員会開催

以下のとおり、第三者審査委員会を開催し、当財団利益相反管理規程第6条第1項に基づく協定及び契約締結の利益相反該当性事案に係る妥当性、同条第2項に基づく職員採用等に係る妥当性について審議

- ・ 9月26日（第10回）決議事項1件：令和6年11月1日付け採用候補者採用等
- ・ 11月27日（第11回）決議事項5件：大会における競技会場内の演出機材操作等業務に関する協定締結 等
- ・ 12月20日（第12回）決議事項2件：大会イベントルックに関する覚書締結 等
- ・ 1月20日（第13回）決議事項2件：大会におけるマラソン競技実施に関する協定締結 等
- ・ 2月12日（第14回）決議事項1件：大会を契機とする持続可能な航空燃料の活用等に関する協定締結
- ・ 2月20日（第15回）決議事項4件：大会関係者の受入れに関する医療機関との覚書締結 等
- ・ 3月19日（第16回）決議事項7件：大会に向けた運営トレーニングの実施に係る協定締結 等

#### 4 広報・PR担当理事

以下のとおり、広報・PR担当理事は、イベント等への出演や取材対応、SNS発信等により、陸上やスポーツの魅力と価値を広め、財団の様々な取組も積極的に発信

##### (1) イベント等への出演

- ・ 国立競技場スタジアムツアースペシャルイベント「アスリートと行く!スタジアムツアー&ランニングイベント」  
(11月24日、12月15日)
- ・ サンデーモーニング (TBS) (2月16日)
- ・ 2024年度 (第31回) コーチングクリニック (2月23日)
- ・ 東京2025世界陸上ボランティア応募者向けビデオメッセージ

##### (2) SNS発信

- ・ 財団の公式SNSが発信する最新情報やマイルストーン投稿毎に、自身のSNSアカウントでリポストやいいね!する等、大会に関連する情報を発信

応募人数

**8,276人**

採用人数

**3,100人**

※ 別途、周辺区等からもご協力いただき、

**活動人数：合計3,400人**のボランティアチームを構成

属性別内訳

(単位：人,%)

### 【国籍別】

日本	7,766	93.8
海外	510	6.2

<b>2,645</b>	<b>85.3</b>
<b>455</b>	<b>14.7</b>

○ 多言語対応のニーズ等を踏まえ、海外国籍の方を積極的に採用

### 【年代別】

18～24	1,265	15.3
25～29	292	3.5
30～39	507	6.2
40～49	989	12.0
50～59	2,418	29.2
60～69	2,080	25.1
70～	725	8.7

<b>577</b>	<b>18.6</b>
<b>160</b>	<b>5.1</b>
<b>260</b>	<b>8.4</b>
<b>427</b>	<b>13.8</b>
<b>849</b>	<b>27.4</b>
<b>641</b>	<b>20.7</b>
<b>186</b>	<b>6.0</b>

○ 応募人数の割合と大きな乖離なく採用

### 【性別】

男性	3,629	43.9
女性	4,630	55.9
その他	17	0.2

<b>1,442</b>	<b>46.5</b>
<b>1,655</b>	<b>53.4</b>
<b>3</b>	<b>0.1</b>

○ 応募人数の割合と大きな乖離なく採用

※内訳は応募人数、採用人数の順で掲載している。

## 今後のスケジュール



◆ ボランティアの全応募者に対し、3月11日(火)、採用結果とあわせ以下の内容をメールにて送信

### ○ 応募への感謝

- ・ 野口理事からのメッセージ動画の配信

URL : <https://youtu.be/rZUM6UnxZ4g>

- ・ コアグラフィックやマスコットを使用したパソコン・スマートフォン用壁紙の配布

### ○ ボランティア活動に係る情報提供

- ・ 東京ボランティアレガシーネットワーク等への登録促進や愛知・名古屋2026大会の紹介

### ○ 大会への関心の継続促進

- ・ 大会の情報提供を定期的を実施

### ○ 大会への参画意欲の創出・機運醸成

- ・ ボランティア応募者限定の特別なご案内を今後配信する旨の周知

◆ ボランティア研修について、次の3種類の実施を予定

### 1 オリエンテーション

- ・実施時期：令和7年4月19日(土)から24日(木)まで
- ・実施方法：対面研修（会場：都内1会場）
- ・実施内容：集合研修、グループアクティビティ ※計90分程度

#### 【研修内容】

- ◆ 大会概要
- ◆ ボランティアの心構え
- ◆ グループアクティビティ(チームビルディング)

### 2 共通研修

- ・実施時期：7月中・下旬から開始
- ・実施方法：オンライン  
※マイページにて研修資料・研修動画を配信
- ・実施内容：活動に必要な知識等に関するオンデマンド研修

#### 【研修内容】

- ◆ 陸上競技に関する知識
- ◆ 活動ルール
- ◆ コンプライアンス
- ◆ ダイバーシティ&インクルージョン
- ◆ セーフガーディング
- ◆ リーダー向け

### 3 会場別・役割別研修

- ・実施時期：8月中旬から開始
- ・実施方法：対面（各会場等）・オンライン併用
- ・実施内容：会場動線、役割の説明（活動分野・活動場所ごとに実施）

#### 【研修内容】

- ◆ 活動内容・役割に応じた知識等

東京2025世界陸上の成功に向けた運営能力の向上を図るため、日本陸上競技連盟が国立競技場において主催する以下の大会において、運営トレーニングを実施する。

### 対象大会

- 1 セイコーゴールデンングランプリ陸上2025東京  
○日程：令和7年5月18日（日曜日）  
○会場：国立競技場
- 2 第109回日本陸上競技選手権大会 兼 東京2025世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会  
○日程：令和7年7月4日（金曜日）から6日（日曜日）まで  
○会場：国立競技場

### 運営トレーニングにおける検証事項

- 1 東京2025世界陸上時に活動する競技役員等の参画
- 2 観客等の入退場時におけるチケット関連業務
- 3 大会運営能力向上に向けたスタッフの参画

### その他

上記のほか、机上や現場での演習などを通じて、大会運営に必要な能力・経験を蓄積していく。

## 1 概要

- ・ 都内全小学校にリレー用バトンを寄贈することで、スポーツが持つ価値を次世代に継承する契機とするとともに、大会へのこどもたちの認知や関心を高めることで、大会気運の醸成につなげていく
- ・ テレビ放送、大会アンバサダー、マスコット等を活用して、本事業を広く発信し効果的に気運醸成を図る観点から、株式会社TBSと共同で本事業を実施

## 2 寄贈物

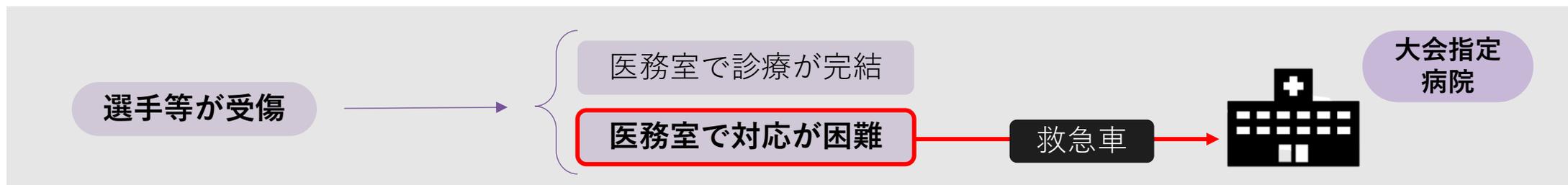
- ・ 東京2025世界陸上 オリジナルバトン8本セット（展示分1本、使用分7本）
- ・ アスリートアンバサダーからこどもたちへのメッセージカード等

## 3 今後の予定

2025年5～6月 バトン発送開始

- 会場医務室（国立競技場・その他関係施設の医務室）での対応を超えたケアが必要な場合に、医療機関としての機能を活かした各種協力を行っていただくことを目的として、大会指定病院を確保
- 大会指定病院と当財団により覚書を締結

大会指定病院までの搬送スキーム



搬送体制

対象者	傷病の程度/搬送先医療機関	
	中等症	重症（生命の危機に瀕する場合）
大会関係者 （選手、チーム関係者、WAファミリー、 財団職員、ボランティアなど）	大会指定病院	直近の三次医療機関
観客	直近医療機関	

※国立競技場内に東京消防庁救急車を配置（選手用、観客用各1台ずつ）